

附属図書館中期構想

2014.10.15.

滋賀医科大学附属図書館は、本学の理念に基づき、その使命を達成するため、次に掲げる事項の充実・整備につとめる。

1. 資料の整備

- (1) 教育・学習用資料の整備・・・図書、視聴覚資料など
- (2) 研究・診療用資料の整備・・・電子ジャーナル、データベースなど
- (3) 資料の保存・活用・・・大学関係資料、古医書

2. 利用環境の整備

- (1) 施設・設備・・・学習に必要なスペース・機器等の整備
- (2) 利用支援・・・学術情報の利活用等支援、医学・看護学教育との連携、図書館利用の促進、e-learning 教材等の作成支援
- (3) システム構築・・・情報基盤となるデータベースやシステムの構築

3. 社会連携

- (1) 地域の医療者の利用
- (2) 一般利用者の利用
- (3) 他の図書館との連携（大学・公共・その他）

4. 情報発信・・・大学の学術情報基盤施設として、本学の研究成果等の情報発信

- (1) 機関リポジトリの整備・・・電子ファイルの書庫
- (2) 滋賀医科大学雑誌の編集・発行
- (3) ウェブサイト等を活用した広報・情報発信

5. 大学の課題への対応・・・大学の学術情報基盤施設として

- (1) 大学の課題に対応した情報の収集・整備・提供
- (2) 利用者ニーズの把握
- (3) コモンスペースとしての機能

6. その他

- (1) 学術情報流通の変化に対応した資料・情報の収集
- (2) 職員のスキルアップ
- (3) 業務改善のための情報収集・評価

図書館の課題に関する文部科学省の報告書・審議まとめ等

- H26. 8 大学等におけるジャーナル環境の整備と我が国のジャーナルの発信力強化の在り方について

電子ジャーナル価格問題、オープンアクセス、日本発ジャーナルの強化

- H25.11.20～ 大学図書館における先進的な取り組みの実践例

学習支援(7)、学内協働(3)、機関連携(3)、電子書籍(3)、
講義アーカイブ・配信(2)、人材育成(1) の 19 例 (H26.10.1 現在)

- H25. 8.21 学修環境充実のための学術情報基盤の整備について (審議まとめ)

コンテンツ、学習空間、人的支援

- H23.12 大学図書館における先進的な取り組みの実践例

学習支援(9)、教育活動への直接的関与(4)、研究支援 (機関リポジトリ) (5)、
コレクション構築とナビゲーション(7)、地域社会連携・国際対応(5)、
組織・運営体制(3)、職員の育成・確保(3) の 36 例

- H22.12 大学図書館の整備について (審議のまとめ)

1. 大学図書館の機能・役割及び戦略的な位置付け
2. 大学図書館職員の育成・確保

- H21. 7 大学図書館の整備及び学術情報流通の在り方について (審議のまとめ)
電子ジャーナル、オープンアクセス、機関リポジトリ

- H18. 3.23 学術情報基盤の今後の在り方について (報告)
コンピュータ及びネットワーク、大学図書館、学術情報発信

- H15. 3.17 学術情報発信に向けた大学図書館機能の改善について (報告書)
学術情報の発信

- H14. 3.12 学術情報の流通基盤の充実について (審議のまとめ)
学術情報の発信

- H 8. 7.29 大学図書館における電子図書館的機能の充実・強化について (建議)
資料の電子化

- H 5.12.16 大学図書館機能の強化・高度化の推進について (報告)
資料の収集、場としての図書館、図書館員の育成・確保、自己点検・評価など

- 上記の他、毎年度末に「学術情報基盤実態調査」の結果報告
(大学図書館、コンピュータ及びネットワーク等)

滋賀医科大学での検討の経過

■ 1. 概要

- S49.4 教育、研究、地域貢献（創設準備委員会）・・・・・・（※ ■ 2 参照）
- S53.11 研究図書館、学習図書館、地域社会の医学情報センター
（滋賀医科大学図書館の基本構想）・・・・・・（※ ■ 3 参照）
- H9.1.30 図書館資料、利用者サービス、電子ネットワーク
（附属図書館の将来構想に関する報告書）・・・・・・（※ ■ 4 参照）
- H9 （7/28 から 12/1 にかけて 10 回にわたって検討）
（附属図書館将来構想ワーキング）・・・・・・（※ ■ 5 参照）
- H16.3 教育、研究、社会連携、学内情報基盤
（中期目標・中期計画）・・・・・・（※ ■ 6 参照）
- H26.3 （附属図書館中期構想検討 WG 設置）

■ 2. 滋賀医科大学の構想 付属医学図書・資料館（S49.4） 京都大学国立医科大学（滋賀県）創設準備委員会

情報時代をむかえての新しい医科大学においては、情報センターとしての図書館および各種資料をそろえた施設は、教育研究にとって不可欠なものである。教育面において特に教育用図書・標本、フィルムと映写装置、ビデオレコーダーなどを充実し、研究面においては、各種図書の整備は勿論、文献索引サービスや、研究用資料の収集などを積極的に行う必要がある。このため従来の医学図書館に資料館をつけて設置するものとする。

これらは学内での利用は勿論、地域医療文化の向上に役立つようその運営に、特別の工夫と努力がなされることが望まれる。

施設としては書庫、資料庫のほか閲覧室、調査室や視聴覚教育施設、展示室などを持つ。

■ 3. 滋賀医科大学図書館の基本構想（附属図書館長 野崎光洋）（S53.11）

・・・云うまでもなく医科大学の使命は医学生教育、医学研究、ならびに診療であり、そのために必要な情報の収集、組織化、伝達を荷っているのが大学図書館の使命であります。・・・本学図書館としても教官、大学院学生等を対象とした研究図書館ならびに学部学生、医療技術者、その他の職員等を対象とした学習図書館を図書館機能の 2 本の柱と考えております。また、利用者の対象も単に学内のみに限らず医学情報センターとして地域社会へも開けた図書館にしたいと考えております。・・・

■ 4. 附属図書館の将来構想に関する報告書 (H9.1.30)

附属図書館将来構想検討専門委員会の3回の審議結果 (H8.10.29-H9.1.23)

1. はじめに

2. 検討事項

- (1) 図書館資料の整備・充実に関すること。
(紙媒体による情報資料)
(電子的情報資料)
- (2) 利用者サービスの向上に関すること
- (3) 電子ネットワーク利用の促進に関すること
- (4) 管理・運営の円滑化に関すること
(資料費)
(要員)
(組織)
(施設・設備)
- (5) その他専門委員会が必要と認める事項

参考：検討事項

- (1) 図書館資料の整備・充実に関すること
- (2) 利用者サービスの向上に関すること
- (3) 電子ネットワーク利用の促進に関すること
- (4) 管理・運営の円滑化に関すること
- (5) その他専門委員会が必要と認める事項

■ 5. 附属図書館将来構想ワーキング

「附属図書館の将来構想に関する報告書」の提言の具現化のために設置

H9.7.28 から H9.12.1 の間に 10 回開催

各回の主な協議題

- (1) 附属図書館の将来構想について
- (2) 雑誌費の高騰に伴う対応について、ドキュメント・デリバリー・サービスについて
- (3) 外国雑誌の現状について、図書館の経費について、ドキュメント・デリバリー・サービスについて、大学図書館の事務組織の現状について
- (4) 環境変化への対応について (電子情報)
- (5) 附属図書館とマルチメディアセンターとの連携について、滋賀医科大学雑誌の今後の発刊について
- (6) 今後のワーキングのスケジュールについて
- (7) 附属図書館とマルチメディアセンターとの連携について
- (8) 附属図書館とマルチメディアセンターとの連携について
- (9) 附属図書館の施設ならびに設備について、電子資料について
- (10) マルチメディアセンターの将来構想について

■ 6. 附属施設等に係る「中期目標・中期計画」 可児一孝 (H16.3 頃)

附属図書館

1. 現状（大学等における位置付け、役割・機能等）

附属図書館は教育・研究に必要な図書雑誌並びに情報に関する資料を収集管理し、職員並びに学生の利用に供することを目的とする大学附属施設として設置された。附属図書館とマルチメディアセンターとの複合建物として、既設図書館棟に増築する形で、平成11年9月に「コラボレーションセンター」施設が完成し、学内の学術情報流通の基盤的施設として、相互に有機的な連携を図りつつ、種々の情報サービスを提供している。

近年、急速な学術資料の電子化が進み、迅速な学術情報の提供が求められる時代において、各種の電子的情報資料の提供環境を整備することに加えて、いかに教育・研究に有用な良質で豊富なコンテンツを提供できるかが、大学の研究・教育活動の発展に大きな影響を与えている。医学・看護学研究者や医療従事者をはじめとする利用者にとっては、ネットワーク経由で常時提供され、時間的・空間的制約の少ない電子ジャーナル等の電子的情報資料の利用は、学術情報の収集に欠かせないものとなっている。

また、能動的学習、問題解決能力の養成を重視する最近の医学・看護学教育において、自主学習が重要な要素として位置づけられており、学生に対して、専門図書や学術雑誌をはじめとする多様な図書館資料を提供し、また、それらを利用する快適な学習の場を提供する附属図書館の役割はますます重要なものになっている。

加えて、生涯学習社会の進展ならびに大学の一般開放への時代の流れの中で、大学と社会との連携が一段と重きをなし、図書館サービスにおいても、地域社会への貢献がより大きく求められている。

2. 中期目標期間中における教育・研究等の目標

- 教育実施体制等の整備に関して、学生に対する教育環境に必要とされる図書館機能の整備・充実を図る。
- 研究実施体制等の整備に関して、研究環境に必要とされる電子図書館的機能等の整備・充実を図る。
- 社会との連携に関して、生涯教育支援の一環として、地域社会に対するサービス活動を促進する。また、学術情報機関等との相互協力を促進する。
- 学内における学術情報流通の基盤施設としての整備・充実を図る。

3. 中期目標期間中における教育・研究等の計画

○ 教育実施体制等の整備に関して、学生用図書をはじめとする図書館資料の整備・充実を図り、円滑な学内共同利用体制の促進を図る。マルチメディアセンターとの一層の連携を図りつつ、文献情報検索や電子的情報資料の活用等に係わる情報リテラシー養成の講習会等の実施について積極的に取り組み、学術情報への効果的なアクセスという側面から情報リテラシー教育の支援を図る。レファレンスサービスについて電子メディアの活用を図る。時間外開館の一層の環境整備を図り、学生の能動型学習および学術情報の収集を支援する。

○ 研究実施体制等の整備に関して、迅速かつ効果的な学術情報の提供のため、電子ジャーナルおよび医学・看護学系データベース等のネットワークに対応した電子的情報資料の効果的導入ならびに利用の促進を図り、研究活動の支援を行う。本学に所蔵のない学術資料の迅速な入手を行うために、ドキュメント・デリバリー・サービス等の一層の活用を図る。

○ 社会との連携において、附属図書館の施設等を整備し、生涯教育ならびに大学の一般開放に対する支援を図る。地域社会の医療従事者等に対する利用サービスの促進を図る。一般市民への利用サービスについて一層の整備を図る。附属図書館で所蔵する医学史関係の文庫について、展示会等を通して資料の公開を行い、地域社会との交流を深める。地域の大学図書館をはじめとする学外の情報関連機関との相互協力の充実を図る。

○ 学内の学術情報流通の基盤施設として、情報関連機器等の整備・充実を図る一方で、マルチメディアセンター等との一層の連携を図り、学術情報の収集ならびに附属図書館ホームページ等を活用した情報発信の充実を図る。また、学内の情報流通システムのあり方について検討を行う。

滋賀医科大学の理念

滋賀医科大学は、地域の特徴を生かしつつ、特色ある医学・看護学の教育・研究により、信頼される医療人を育成すること、さらに、世界に情報を発信する研究者を養成することにより、人類の健康、医療、福祉の向上と発展に貢献する。

滋賀医科大学の使命

滋賀医科大学は、幅広い教養と医学及び看護学のそれぞれの領域に関する高い専門的知識及び技能を授けるとともに、確固たる倫理観を備え、有能にして旺盛な探求心を有する人材を育成することを目的とし、もって医学及び看護学の進歩、発展に寄与し、併せて社会の福祉に貢献することを使命とする。(滋賀医科大学学則第1条より抜粋)